

まちのわだい

Town Topics

新春に歩いて健康！641人が完歩

第45回新春歩け歩け大会 1月3日

下妻市恒例の「新春歩け歩け大会」が1月3日の早朝、市民文化会館を発着点に開催され、市民など641人が参加しました。

歩いたコースは約8.4km。市民文化会館を出発し、市街地を抜けて大宝八幡宮を經由、堀籠から国道125号を通過して市民文化会館に戻ってくるもの。先頭集団は、約1時間半で歩きました。

ゴール地点では、完歩者に温かいおしるこのおもてなしと参加賞のダルマが手渡されました。さらに、福袋が抽選で当たった参加者からは「新年から運がいい!!」などと喜びの声がありました。

毎年楽しみに、約30年続けて参加しているという60代女性からは「歩けるということは健康な証拠。できるかぎり続けて参加したい。歩いた後のおしるこがおいしい」と話しが聞けました。



市街地を歩く先頭集団の参加者

情報 豊かな子どもたちを育む

第13回わらべうた・あそびランド大会 1月17日



歌や踊りで共演する園児と出演者

幼少年の豊かな感性を育む活動に取り組む「わらべうた・あそびランド」が主催する「第13回わらべうた・あそびランド大会」が1月17日、下妻市民文化会館で開催され、市内の親子など約450人が参加しました。

下妻・きぬ・大宝・大和の市内4保育園の園児と、童謡と唱歌をうたう会、浜木綿朗読の会、長塚はやし保存会の3つの団体が共演し、歌ったり踊ったりと舞台を盛り上げました。

わらべうた・あそびランドの鉄羅正樹会長は「子どもたちが心豊かに、健やかに成長することを願いこの大会を実施しています。2年に1度の開催ですが、次回もいろいろな企画を行いたい」と早くも、次の大会に向けての抱負を語りました。



さらなる飛躍の年を祈念して万歳三唱

下妻市のさらなる飛躍を誓う

2016年下妻市新春の集い 1月13日

下妻市、下妻市商工会、常総ひかり農業協同組合の共催による「2016年下妻市新春の集い」が1月13日、八幡屋で開催されました。

集いには、地元選出の国会議員、県議会議員、市議会議員、各種団体や市関連企業の代表者など263人が参加。新年のあいさつを交わしながら、下妻市のさらなる飛躍を誓い合いました。

主催者を代表したあいさつで稲葉市長は、平成27年9月関東・東北豪雨災害での救助や復旧活動などの支援に感謝の言葉を述べた上で「今後も、災害のない安全で安心なまちづくりはもとより、商業・工業・そして農業とバランスの取れたまちづくりを、下妻市・下妻市商工会・常総ひかり農業協同組合が一体となり、皆さまと一緒に下妻市をつくり上げていきたい」と力強く抱負を語りました。

かるたで白熱バトル

図書館かるた大会 1月17日

下妻市立図書館で1月17日、「図書館かるた大会」が開催されました。今回で3回目。参加した市内の5歳～小学5年の児童42人は「すくすく育て・いばらきっ子かるた」で白熱したバトルを繰り広げました。

同大会で使用されるかるたは、平成24年度に県教育委員会が読み札となる標語を県民等に募集し、44の読み札と絵札を作成した茨城県独自のもので、子どもたちが遊びを通して、望ましい生活習慣や規範意識について学ぶことを目的としています。

小学1年生の部で優勝した山下美春さん(宗道小)は、5歳から3年連続の優勝。「家ではいとことかるたで遊んでます。6年生まで優勝できるように頑張りたい」と笑顔で抱負を語りました。



かるた取りに集中する子どもたち

地域の宝を炎から守る

文化財防火デー「消防訓練」 1月23日

地域の宝を火災や自然災害から守ろうと、国指定の重要文化財「大宝八幡宮本殿」を有する大宝八幡宮の境内で1月23日、消防訓練が行われました。下妻消防署や消防団、八幡宮職員、地元住民など約80名が参加しました。

拝殿の火災を想定した消火訓練では消防団員の本番さながらの放水にあわせ、八幡宮の職員も境内の屋外消火栓を使って放水するなど、迅速な消火活動が実施されました。

「文化財防火デー」は、世界最古の木造建築である法隆寺の金堂で昭和24年1月26日、壁画などが焼損したのを教訓として、昭和25年に文化財保護法が、昭和30年に防火デーが制定されています。



大宝八幡宮の拝殿に放水する消防団員

無病息災、五穀豊穰を祈って

高道祖地区どんど焼き 1月16日

青少年を育てる市民の会高道祖支部が主催する「どんど焼き」が1月16日、小貝川ふれあい公園・高道祖駐車場(養豚センター跡地)で行われました。

参加者は、持ち寄ったしめ縄や松飾りを炎の中へ投じたり、長い棒にさした餅を残り火で焼いて食べたりと、ふるまわれたもつ煮込みや甘酒に舌鼓を打ちながら新年のあいさつを交わす姿も見られました。

一度途絶えたこの祭事は、昭和61年に起こった小貝川氾濫をきっかけに、高道祖地区の厄を落とすために昭和62年に復活。現在は無病息災や五穀豊穰を祈る祭事として続けられています。

同会高道祖支部長の齊藤善夫さんは「事前準備もあるため、地域のみんが協力し合えないとできない行事。みんなの力を借りながら、これからも一生懸命、伝統行事を守っていきたい」と地域のつながりの大切さを語りました。



どんど焼きの炎を見守る人々

スポーツ & カルチャー

がんばる小・中学生!!

小学生

- 第8回ヨネックス杯関東小学生クラブ対抗ソフトテニス大会
準優勝 団体戦女子の部 下妻JSTクラブ
- 第29回五霞近隣バレーボールスポーツ少年団新人大会
優勝 スマイルキッズスポーツ少年団